聞いてみました！

繁殖が良い農場の頭の中　2

かやの

前回：　数値や現状を意識する

先月は、繁殖成績が良い農場が何を大切にしているのかを共有しました。具体的には、初回授精日や授精回数、搾乳日数などを意識して、「いつまでに、何をするのか」という行動管理が大事だというお話でした。今回はそういった意識をもったうえで、実際の発情兆候のどういうところに着目しているか、お聞きした内容をベースにまとめます。

発情兆候

以下は、*酪農能郷研究所－酪農家のための技術シリーズ*から抜粋した、農家さんが特に気にしているポイントです。何も特別なことではなく、多くの皆さんが気にしている兆候だと思います。

- 動きが活発になり、落ち着かなくなる
- 乗駕を許容して立っている
- 粘液を出す
- 外陰部が充血し膨れる
- 大声で鳴き叫ぶなど
- 乳量低下や採食量の低下

確認するタイミングやポイント

①　搾乳のタイミング

- となりの牛や人へのちょっかい
- 通常時乳量からの低下（大幅な低下、乳が張っている割にでないなど）
- ミルカーを頻繁に落とす、引っ張る
- 陰部からの粘液や排血
- 大声で鳴いている
- うしろを気にする

②　餌押し、飼槽の掃除のタイミング

- 前に立った際にマウンティングの兆候
- においを嗅ぐようなしぐさ
- 大声で鳴いている

③　除糞のタイミング

- となりの牛や人へのちょっかい
- 陰部からの粘液や排血
- 大声で鳴いている
- うしろを気にする



図：農研機構 HP より引用

まとめ

発情発見で特に大切にしていたのは、「いつもと何か違うところはないか」という変化を見極めることです。発情兆候に関して気にかけているポイントは特別なことではなく、一般的に言われていることを淡々と、でも丁寧に意識するといった印象です。先月号でも書きましたが、VWP 前から発情発見を意識することでVWP 後に早くスムーズに授精にもっていけるといった話は、個人的には目から鱗でした（前回図を参照）。

まずは、改めて農場の繁殖目標を定め、現状を把握するところからスタートしてみてはいかがでしょうか。